

2026年5月28日

日揮ホールディングス株式会社

新中期経営計画の詳細オンライン説明会における質疑応答（2026年5月27日開催）

※オンラインカンファレンス開催日（2026年5月27日）時点の情報に基づく内容です。

1. 日揮グループ新中期経営計画「Building a Sustainable Planetary Infrastructure 2030（BSP2030）」について

質問	回答
<p>中期経営計画「Building a Sustainable Planetary Infrastructure 2030」プレゼンテーション資料のP.14「重点戦略と経営指標」に関して、「BSP2030」において3つの重点戦略として「総合エンジニアリング事業の持続的な競争力強化」「機能材製造事業の成長加速」「ソリューションビジネスの拡充」を掲げているが、それぞれの事業・ビジネスモデルにおける取り組み方針や、EPC事業におけるオイル&ガス分野とその他分野とのバランス等について、前中期経営計画「BSP2025」との違いを教えてください。</p>	<p>総合エンジニアリング事業については、当面の間、EPC事業において液化天然ガス（LNG）を中心とするオイル&ガス分野が収益の大部分を占める構図に大きな変化はない。一方で、オイル&ガス分野以外の取り組みについては、P.18、19「マーケットへの適応と戦略的事業育成の両立」で示している通り、半導体・データセンター分野や非鉄製錬分野を注力領域の例として挙げつつも、不確実性の高い環境が継続することから、注力分野を決め打ちするのではなく、まずはFSやFEEDなどを通じて市場や顧客との接点を広げ、市場の成長性や立ち上がりを見極めながら、戦略的かつ柔軟に取り組んでいく方針である。</p> <p>機能材製造事業については、前中期経営計画に引き続き、その成長をさらに加速していく。</p> <p>ソリューションビジネスについては、複数の顧客に対して共通し汎用的に提供可能なソリューションを、積極的に提案していくビジネスの創出を企図しているものである。「BSP2025」期間中にも一定の取り組み実績はあるが、これらを「ソリューションビジネス」として再定義し、その拡充を図っ</p>

	ていく。
P.14「重視する経営指標」に関して、営業利益目標 600 億円における EPC 事業とその他分野の内訳を教えてください。また、本経営指標の前提となった連結売上高の前提について教えてください。	<p>営業利益 600 億円の内訳としては、EPC 事業と非 EPC 事業（メンテナンス事業および機能材製造事業等を含む）で、おおよそ 3：1 程度を想定している。</p> <p>また、連結売上高については、2030 年までに 1 兆円規模に達することを想定している。なお、「BSP2030」では、安定的な利益確保を重視していることから、売上高については敢えて経営指標として設定していない。</p>
P.32、33「成長戦略実現に向けた投資と資本政策」に関して、成長投資としては 5 年間累計で約 2,800 億円が充当されると示されているが、株主還元についての 5 年間累計の規模感や、自己株式取得を含めたキャッシュアロケーションの考え方について詳細を教えてください。	<p>5 年間累計の資金使途の規模感については、成長投資に 2,800 億円、株主還元約 800 億円、残りは運転資金というイメージである。</p> <p>なお、自己株式取得については、業績見通しやキャッシュ・フローの状況、成長投資の進捗等を踏まえつつ、資本効率を勘案の上、総合的に検討することとしている。例えば、計画を上回る業績や、資産売却等による余剰キャッシュが発生する場合等においては、自己株式取得を検討する可能性がある。</p>

以 上